

今日の説教のポイント <マタイによる福音書5章17~20節>

祈禱会でしばしば、「聖書の読み方は『全体から細部へ』であって、その逆ではない」ということをお話ししています。どういうことかと言いますと、聖書を読んでいて分かりにくい言葉に出会ったときは、その短い箇所から自分勝手に拡大解釈して読み取ろうとするのではなく、聖書全体から教えられる内容は何かということに一度立ち帰って、そこから考えて読み取ろうとしなければならない、ということです。今日の箇所はそのようにして読むことが求められる典型的な箇所です。

①「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。」(17)

イエス様がこう言われるということは、イエス様のことを、「昔から大事にして来た律法や預言者の教えを破っている」と非難する人々がいたということです。しかしそれに対して、イエス様は、「むしろ逆だ。廃止するためではなく、完成するために来たのだ」と言われました。ということは、やはり、律法のような掟を彼ら以上に立派に守れ、と言われているのでしょうか？ 分からなくなって来ましたね。ここで最初に挙げた『全体から細部へ』の登場です。

聖書全体で教えている一番大切なことは何でしたか？ 神様が御子イエス・キリストによって示された一番大切なことは、愛によって律法を完成しなさい、ということでした。ね。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ15:12~13、13:34も)。このことからもう一度17節を考えてみるとはっきりして来ます、「大事なことは律法を守り切るかどうかではなくて、キリストの赦しの愛を知らされた者らしく、自分も他者に対して生きて行くことだ」と。

②「だから、これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さいものと呼ばれる。しかし、それを守り、そうするように教える者は、天の国で大いなる者と呼ばれる」(19)

ですからここに記されている内容も、愛の方向で「最も小さな掟」「それ」の内容を考えて行かなくてはなりませんし、考えて行けばいいのです。導かれて信仰者となり、このことを分かっている、私たちは「神の愛」以外の物差しでもって他者を測ろうとすることの多いものです。初代教会を導いたペトロやヤコブにもそのようなことが起こりました(使徒言行録10:1~11:18)。今日の箇所に続いて、主は、「怒り、腹を立てること」について戒められます(21節以下)。怒り腹を立てることは、「自分が正しい」と思う時に信仰者も起こしやすい姿です。「主イエスも怒られた」として、怒ることもよしと考えることがあります。しかしそれも『全体から細部』とは逆の『細部からの拡大解釈』に陥っています。主の怒りも、『全体から細部へ』で考える中で、その本当の意味が見えて来るはずですよ。